

「エネルギー・環境に関する選択肢」に対する意見(パブリックコメント)

生活協同組合あいコープみやぎ

<意見の概要>

原発ゼロシナリオを支持します。

将来世代にこれ以上の「負の遺産」を作らないために、日本、東北、宮城の大地と海を二度と放射能で汚させないために、「原発は即刻ゼロ」を求めます。

◎子ども達の未来のために、私たちの責任として「原発は即刻ゼロ」に！

私たちの世代はすでに、福島第一原発事故によって、とんでもない「負の遺産」を将来世代に残すこととなってしまいました。

私たちの住む宮城にも放射能は降り注ぎ、私たちの子や孫は一生に渡って、シーベルト(環境の放射能汚染)やベクレル(食べ物の放射能汚染)の数値を気に掛け、予測のつかない健康被害に不安を抱きながら、暮らしていくこととなりました。

そして福島原発を「廃炉」にするための、この先何十年かかるか分からない、気の遠くなるような工程。誰かがやらねばならない膨大な被曝労働が、子や孫やその先の将来世代に渡って、強いられるのです。

その間、再び大地震が起きないか、福島第一原発から更なる大量の放射能放出が起きないか、常に恐怖に晒されながら。

本当に悔やんでも悔やみきれない、子や孫に謝っても謝りきれない事態に、すでになっているのです。

未来の人類にとって、私たちは間違いなく、史上最悪の先祖です。

もう十分ではないでしょうか、子や孫や将来世代へ迷惑を掛けるのは。

原発・核エネルギーの「恩恵」を受けるのは数十年かせいぜい百年、数世代に過ぎません。しかしその結果生み出される膨大な核廃棄物の管理、それに失敗したときの汚染リスクは、遙か先の将来世代にわたって、文字どおり永遠に続きます。

私たちが原発をゼロにするか否かの選択は、単に向こう十数年のエネルギー問題、環境問題ではない。まして目先の景気や経済の問題ではあり得ない。

私たちの世代が、今からできるせめてもの行ないとして、核廃棄物を増やさない＝将来世代にもうこれ以上の「負の遺産」を作らないという「倫理」の問題なのです。

私たちは、原発何%でエネルギーが足りるか？経済が成り立つか？等と問題を立てるのではなく、「原発は即刻ゼロ」を前提にした上で再生可能なエネルギーの範囲でどう暮らしていくか？経済や社会をどう作り直していくか？と問題設定し、取り組んでいかねばなりません。

それが、すでに将来世代にとんでもない迷惑をかけてしまった私たち世代の最低限の責任であり、償いであり、倫理です。

私たちの選択肢は、倫理的に「原発は即刻ゼロ」しかあり得ません。

◎日本、東北、宮城の大地と海を、二度と放射能で汚してはならない！

私たち「あいコープみやぎ」は「地産地消」「食の自給と安全」を旨とする生協です。東北・宮城の生産者と直接結び付き、消費者と生産者が互いに対等で人間的な信頼関係を築くことが「食の安全安心」を創るとの考えのもと、産直運動を推進してきました。

しかし福島第一原発事故が起こり、私たちの「地産地消」の基盤である東北・宮城の大地と海に、放射能が降り注ぎました。

大地に根つき、海に生き、安全安心な食べ物を作ることに誇りをもって取り組んできた生産者の怒り、憤りがどれほどのものであったか想像してみてください。

その生産者に感謝しながら家族の食事を作り子育てしてきた生協組合員の嘆き、悲しみがどれほどのものであったか想像してみてください。

自分達の住む環境や食べ物が放射能で汚染されるという体験を通じて、私たちは改めて、東北の美しい山里海、澄んだ空気や水、肥沃な土、美味しい米や野菜、山で採れる山菜やきのこ、海や川で釣れる魚… その中で平和に暮らし子育てができるということが、いかに幸せなことであり、かけがえのない「豊かさ」であったかということを痛感しました。

この「豊かさ」は、GDPなどでは決して測ることのできない、人間にとって、社会にとって一番大切な豊かさなのです。

私たちはこの「豊かさ」が永遠に続くものと思っていました。

しかし原発事故は一夜にして、それを汚してしまったのです。放出された放射能を元に戻すことは不可能であり、「取り返しがつかない」のです。

私たちは「原発と人間は相容れない」ということを、身をもって、はっきりと理解しました。

東北の豊かな自然と、その循環の中で持続的に営まれる農畜産業・水産業は、私たちの文化であり、風土であり、故郷そのものです。

私たちの大切な故郷を放射能で汚すことは、二度と許しません。

他のどんな地域でも、世代でも、同じ悲しみが起こることを決して許しません。

原発事故の可能性は、即座に、永遠に、ゼロにしなければなりません。

そのための選択肢は「原発は即刻ゼロ」以外あり得ないのです。

大飯原発3号・4号を止め、すべての原発の再稼働を断念し、「原発は即刻ゼロ」を選択することを強く求めます。